

中国の水環境管理を強化するための日中共同研究

国家環境保護局(SEPA)によると中国の環境問題の中でも特に、飲料水の安全を脅かす水質汚濁問題が最も重要な課題。



平成18年12月日中韓環境大臣会合
日中環境大臣会談で、水環境管理で日中共同研究の開始に合意

平成19年4月日中環境協力共同声明
「飲料水源地保護を強化し、河川・湖沼・海洋・地下水の汚濁を防止し、特に渤海、黄海区域及び長江流域などの重要水域における水質汚濁防止について協力を実施する」

環境省とSEPAの連携・協力

- 2006年度から日中共同で現地調査、地方ヒアリング等を実施。
- 中国各地域(流域)の水環境管理上の課題の明確化及びその課題解決のために講ずべき対策のあり方、法制度等のあり方等について分析。
- 2007年度以降も、引き続き現地調査、地方ヒアリング等を実施するとともに、SEPAとの実務レベルでの政策対話を実施する予定。

中国の環境対策 51項目改善提言

OECD

【北京＝新日鐵弘一経済協力開発機構(OECD)は九日、中国の環境に関する成績評価報告を公表した。環境対策に一定の評価をしつつも地方を中心に法制度面の美効性が低いと指摘、国家環境保護總局を、より権限の強い「省」へ昇格することなど五十一項目にわたる提言している。

中国はOECD加盟国ではないが、経済成長による環境悪化の影響が大きいことから初めて環境成績の評価が行われた。

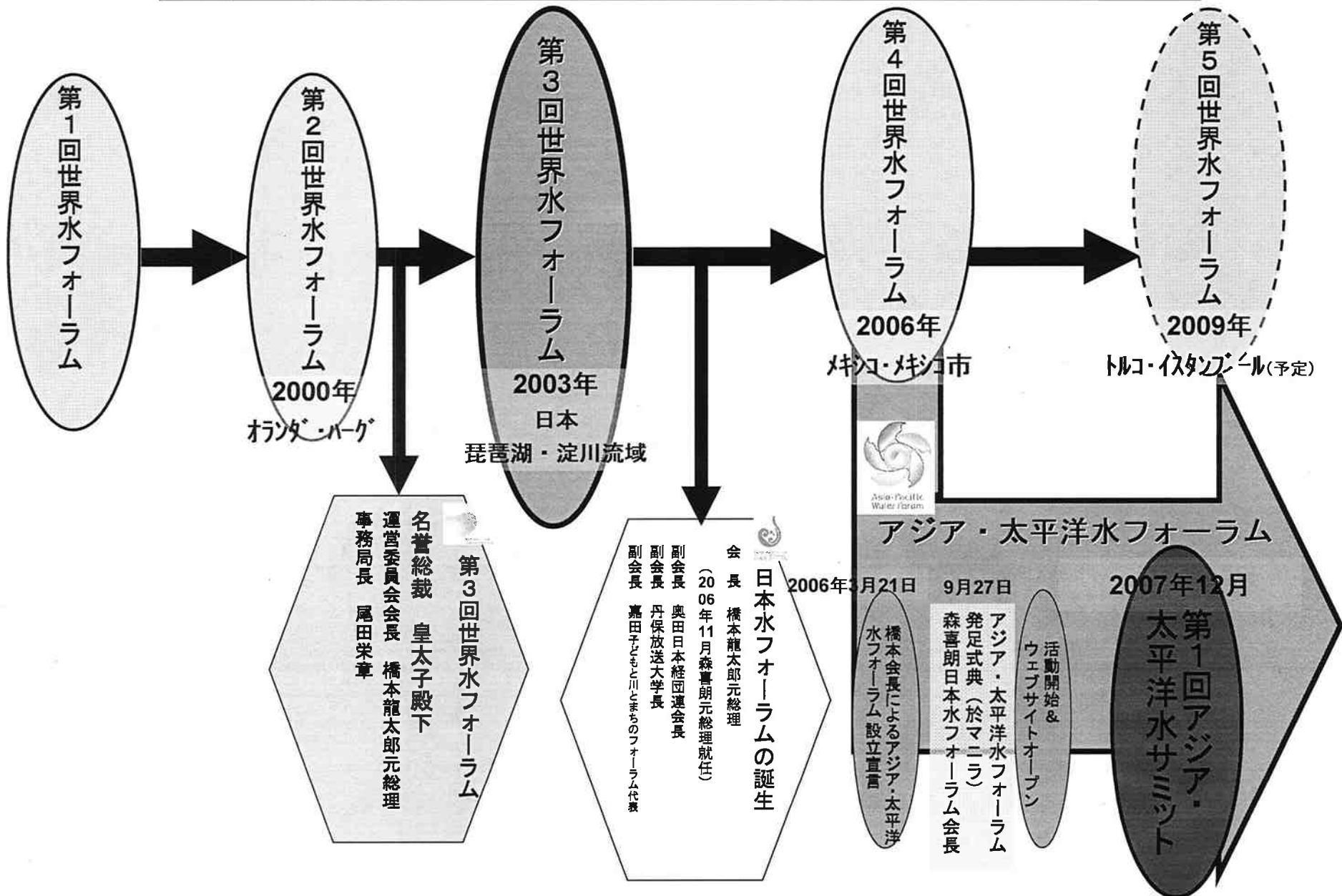
報告では、一部の大都市が依然として世界最悪レベルの大気のほか、都市廃棄物の半分が処理待ちで、河川など水質汚染も深刻なほど課題を指摘している。

OECDの赤阪清隆事務次長は中央政府の取り組みを評価しつつも「地方政府は経済発展を優先して環境保護を犠牲にしている」と体制面に大きな課題があると述べた。

このため①全国的に効力ある環境法律の実施②環境税や排出権取引など経済手段の利用③クリーンエネルギーや技術の利活用促進④海外企業の技術支援など国際協力の促進などを提言した。

(参考) 東京新聞2006. 11. 10 朝刊

アジア・太平洋水フォーラム、アジア・太平洋水サミット



サラゴサ国際博覧会

2006年 スペイン政府より日本に対して、サラゴサ博覧会への参加招請
日本政府としての公式参加の閣議了解

2007年

環境省は、平成19年度予算事業においてサラゴサ国際博覧会における、水環境関係の普及啓発活動を実施するための検討を実施

- ・我が国の水環境保全のための取組のPR
- ・水に関する様々なステークホルダーと連携したイベント 等

2008年

サラゴサ国際博覧会

(6月14日～9月13日、スペイン)

テーマ：「水と持続可能な発展」

目的：人類の生存に欠かせない「水」との新たな関係を構築する必要性を、地球規模で考える枠組みを創造

水環境関連施策のPR
イベント等の実施

環境対策技術やノウハウの情報発信

世界の水環境保全に貢献